

4 調査研究業務の概要

平成 25 年度実施課題一覧

①保健関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
地域保健情報の解析、評価及び活用に関する研究	健康・生活習慣に関する情報を用いた健康増進に係る基礎的研究	特定健診、保健指導、健康栄養調査を代表とする健康に関するデータを収集し、それぞれのデータから福岡県の健康に関する現状の分析や要因の推定を行う。研究を通して得た指標値や推定結果については、健康増進課や保健所、市町村へ情報提供し、施策立案、その評価、各種計画策定のための基礎資料として還元する。	24-26年度	P12
	がん検診受診率向上に向けた効果的方策の検討	平成25年度は、がん検診受診率向上のために重要だとされている①個別受診勧奨の有無、②利便性の向上（集団検診実施日数）の2点が福岡県内60市町村の胃がん検診受診率に与える影響について観察した。「個別通知」や「集団検診実施日数」が適切になされた場合には、がん検診受診率が向上することが福岡県内のデータでも示された。	25-26年度	P12
感染症の発生及び食品の安全性確保に関する研究	福岡県におけるカンピロバクター食中毒を防止するための研究	食肉及びヒト由来株を用いて、薬剤感受性試験を行った。また、キノロン系抗菌剤耐性株及びテトラサイクリン系抗菌剤耐性株の耐性遺伝子の変異等について検討した。	23-25年度	P16
	<i>Escherichia albertii</i> の新生物型に関する研究	平成 25 年度は、菌株を収集するため、全国 24 ヶ所にて鳩の排泄物（n=838）をサンプリングし本菌の分離を試みた。	25-27年度	P16
	非 0157 腸管出血性大腸菌の病原因子に関する研究	平成 25 年度は、091（50 株）について、分子疫学的解析・病原因子の検出を試みた。	25-27年度	P16
	Multiplex real-time SYBR Green PCR を用いた食中毒細菌の網羅的検出法の改良・応用	平成 25 年度は、網羅的遺伝子検出系に使用する PCR 試薬を事前に作成し、冷蔵または凍結保存を行うことが可能か検討を行った。	25-27年度	P16
	福岡県におけるロタウイルス流行実態解明に関する調査研究	福岡県内で流行しているロタウイルスについて遺伝子型別を行い、福岡県内における流行実態の把握を行った。ワクチン導入に伴う流行株への影響を監視する。	24-26年度	P18
	呼吸器感染症の網羅的マルチプレックス PCR法の実践的応用と改良に関する研究	呼吸器ウイルス検出法の改良を行い、検出感度の向上を目指す。さらに確立した方法を用いて、福岡県における呼吸器系ウイルスの流行状況を把握する。	24-26年度	P18

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
ダイオキシン類、有害化学物質による健康被害の防止とその対策に関する研究	有害化学物質による食品汚染実態の把握に関する研究	食品の安全性を把握するため、残留性有機化合物である臭素系難燃剤や農薬等について、新規化合物の分析法検討、食品汚染実態調査及び摂取量調査等を行う。	23-25年度	P20
	油症等のダイオキシン類による人体影響と遺伝要因の解明に関する研究	福岡県を中心に発生した油症をはじめとするダイオキシン類のヒトへの健康被害及び次世代への影響における遺伝要因との関係を解明し、行政対応のための科学的データ蓄積に資する。	25-27年度	P20

②環境関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
ダイオキシン類、有害化学物質による環境汚染の防止とその対策に関する研究	水環境中における化学物質のリスク評価に関する研究 -N,N-ジメチルドデシルアミン, N,N-ジメチルオクタデシルアミン等-	N,N-ジメチルドデシルアミン (DMDA)、N,N-ジメチルオクタデシルアミン (DMOA) は人の健康及び生態系への影響が懸念されている物質であるが、いまだ分析法が開発されておらず、暴露情報が不足している。そこで、これら2物質同時分析法を開発し、環境調査およびリスク評価を行うことを目的とする。	23-25年度	P14
	有害化学物質の迅速スクリーニング法の開発	化学汚染に係る従来の分析方法では、有害化学物質を網羅的に計測するような手法は確立されていない。本研究では、マイクロ波技術を駆使して、環境試料中有機汚染物質および重金属類の同時スクリーニング法の開発を行う。	25-27年度	P14
大気環境の保全に関する研究	福岡県の環境活用資源等の潜在力調査	福岡県の環境資源を特定し、それを利用した二酸化炭素吸収効果、環境大気汚染物質吸収効果及び省エネルギー効果等を計算することにより、今後の市町村の循環型社会推進計画や環境政策の基本資料とする。	25-27年度	P22
	福岡県における微小粒子状物質 (PM _{2.5}) 濃度の実態把握と影響評価	PM _{2.5} に含まれる成分は、成分濃度及び濃度比から発生源の特徴が認められ、汚染の指標になることが考えられることから、本研究では福岡県でPM _{2.5} 中の質量濃度及び成分濃度を測定し、実態を把握するとともに、気象解析等により影響を評価する。	25-27年度	P23
	高活性炭素繊維 (ACF)を用いた多機能型空気浄化技術の開発	道路沿道の他、室内、自動車内、地下駐車場のよう、殆ど風のない場所で、空気の自然対流やガス拡散によりNOx、VOCをACFに捕捉、浄化できる空気浄化システムの設計、実用化を目指す。	23-25年度	P22
	大気汚染物質の山地における植生影響に関する研究	ブナ林植生が存在する英彦山及び脊振山において、オゾン等の大気汚染物質調査及びブナの衰退度調査を実施し、大気汚染と植物衰退との関連について検討する。	24-26年度	P23

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
	新しい放射性セシウム吸着材の開発及びその評価と利用に関する研究	新しいセシウム吸着材（活性化雲母鉱物 Activated Micaceous Mineral : AM ² ）の開発・改良を押し進めつつ、吸着性能評価・適用性評価を実施した結果、セシウムを強力に吸着でき、かつ高い固定化率を得ることが可能な吸着材を開発した。	25-27年度	P23
水環境の保全に関する研究	アオコ抑制技術のマイクロシスチン汚染への影響調査	富栄養化した湖沼では様々なアオコ抑制対策が行われている。本研究ではアオコ対策がマイクロシスチン汚染へ及ぼす影響を検討するとともに、汚染拡大を引き起こさないアオコ抑制技術を検討する。	24-26年度	P25
	沿岸生態系制御を目的とした栄養塩管理に関する基礎的研究	有明海の環境異変の問題解決を目指して、窒素・リンに加え溶存態ケイ素（DSi）を加えた沿岸生態系予測モデルを完成させることを念頭に、溶存態ケイ素の流出負荷量モデルを作成し沿岸生態系への影響について調査した。	25-27年度	P25
	湖沼・河川水中の硝酸イオンの再生可能な除去法の開発	市販されている陰イオン交換樹脂の硝酸イオン除去能を確認し、土壌カラム試験を行った。	25-27年度	P25
廃棄物の適正処理と有効利用に関する研究	都市ゴミ焼却灰の有効利用	都市ゴミ焼却灰に含まれるフリーデル氏塩などの難溶性塩分を、自然界での酸性水で洗浄することにより、短時間で安価に脱塩出来た。RDF飛灰については、難溶性塩であるフリーデル氏塩の生成状況を確認し、効率的な脱塩に関する基礎的研究を実施した。	24-25年度	P27
自然環境と生物多様性の保全に関する研究	湿地の生物多様性評価に関する研究 ー福岡県内湿地の特性把握と重要湿地の抽出ー	福岡県内の湿地を対象として、生物種の分布実態を詳細に調査することにより、県内の湿地の生物多様性の現状を把握するとともに、得られた調査データ及び既存情報等を統合して、重要地域等を抽出する。	23-25年度	P28
	希少水生生物の生息地再生に関する研究	近年、積極的な保全対策として、自然再生・生息地再生が試みはじめられているが、その手法や効果については検討すべき課題が多い。そこで、希少水生生物の効果的な生息地再生手法を確立する。	23-25年度	P29
	英彦山ブナ林生態系における生物多様性の保全と再生	英彦山ブナ林は、台風被害等によりブナの衰弱・枯死が進み、最近ではシカの食害により林床植生が貧弱化している。このような生態系の劣化が進行している英彦山ブナ林を対象に総合的な生態調査を実施し、ブナ林生態系の保全と再生の方向性を検討する。	25-27年度	P29
計	24 課題			